

第二回（令和六年度）

旭川市内小学生『民生委員・児童委員』作文コンテスト

「家族っていいな、あいさつするのって、  
ご近所さんと、自分って」など、身近な  
できごとを、自分の考えで、自分の言葉で  
表現してみよう！！」

〔入賞（最優秀賞・優秀賞・優良賞・佳作）作文集〕



旭川市民生委員児童委員連絡協議会

## 【目次】

□最優秀賞（旭川市民生委員児童委員連絡協議会長賞）	.....	1
ぽかぽか〜温かい気持ち〜	旭川市立永山西小学校	六年 岩内愛莉
□優秀賞（旭川市長賞）	.....	2
きれいに咲いたあさがお	旭川市立啓明小学校	五年 渡部真白
□優秀賞（旭川市教育委員会教育長賞）	.....	3
家族と人と関わることの大切さ	旭川市立東光小学校	六年 野田いのり
□優秀賞（旭川市小学校長会長賞）	.....	4
心でつながる街「旭川」	北海道教育大学附属旭川小学校	五年 茂田さくら
□優秀賞（旭川市社会福祉協議会長賞）	.....	5
小さな関わり、大きなつながり	旭川市立高台小学校	六年 大石かのん
□優良賞	.....	6
地域の人への感謝	旭川市立大有小学校	六年 明石優月
□優良賞	.....	7
一言の挨拶	旭川市立北鎮小学校	六年 松田彩夏
□優良賞	.....	8
町内会って素晴らしい	旭川市立西神楽小学校	六年 里木梨夏
□優良賞	.....	9
人と人をつなぐあいさつ	旭川市立豊岡小学校	五年 島田千晶
□優良賞	.....	10
地域の関わりのお大切さ	旭川市立高台小学校	六年 佐々木柚花
□佳作	.....	11
町内会の大事さを知って	旭川市立末広小学校	五年 山田晴斗
□佳作	.....	12
地域の一員として	旭川市立豊岡小学校	六年 久保俊輔

□最優秀賞（旭川市民生委員児童委員連絡協議会長賞）□

ぽかぽか〜温かい気持ち〜

旭川市立永山西小学校 六年 岩<sup>いわ</sup>内<sup>うち</sup>愛<sup>あい</sup>莉<sup>り</sup>

「かわいいね。」そう言い合いながら、両親は私と兄の小さい頃の映像を見ている。画面の中の私は、母が作ったハンバーグを片手に持ち、ケーキにも手をつけている。顔中どころか髪にまでクリームや食べものが付着している。「はずかしい。」と思う反面、楽しそうに映像を見ている両親の姿を見ると、自分が大切にされていることを実感する。

我が家には、私の小さい頃の映像がたくさんある。公園で木の枝を持ちハトを追いかけ回している様子、ひっくり返って大泣きしているもの、兄といっしょに部屋中をティッシュだらけにしている様子やワセリンを全身にぬりたくり髪までベタベタにして笑っているものまである。もし、私が親の立場だったら絶対に怒っている。きっと両親は大変だっただろう。母に「私、小さい頃いたずらばかりで大変だったでしょう？」と聞いたことがある。母は「毎日が戦い」と。でも、顔は笑っていて楽しそうに見えた。「大変なことを思い出したらイヤな気持ちにならないの？」と再度たずねた私に、母は即答で「なるわけないよ。ママの幸せな思い出なんだから」と言った。そして、少し考えて「大変だったのは本当。だけど、それ以上に幸せな時間だったよ。あなた達と過ごす時間は、どんな日だって宝ものだから。きっと、愛ちゃんもママになった時に分かるよ。」と、にっこりした。それから、私の小さい頃の話の笑いながら教えてくれた。何度も聞かされている私のおてんばエピソード。楽しそうに話をする母の顔を見ていると心がぽかぽかと温かい気持ちになった。母も私と同じようにぽかぽかと温かい気持ちになっていてくれたらうれしい。そう思うと、私は自然と笑顔になっていた。

私にとって、家族は多くの時間をいっしょに過ごす特別な存在だ。ケンカをして、もう大キライ!!と思う日や叱られて泣く日もある。けれど、うれしさや楽しさを共有するのも家族だ。私が自分の気持ちを正直にぶつけ、そして、それを受け止めてくれるのも家族だけだろう。だから、私にとって家族は安心して過ごせる大切な場所であり、特別な存在なのだ。この特別な存在である家族を、私はずっと大切にしていきたい。毎日、「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたり、「気を付けてね」「おかえりなさい」など、相手を思いやる言葉をかかず。こうした日常の小さな感謝や思いやりの心を積み重ねていくことが、家族のきずなを深めていくのだと思う。母が言った「どんな日も宝もの」という言葉。家族と過ごす日々は、どんな日だろうと私の宝ものだ。この母の言葉を大切に、今日も私は家族と共に過ごす。大好きな家族がみんな、ぽかぽかと温かい気持ちでいられることを願って。



□優秀賞（旭川市長賞）□

きれいに咲いたあさがお

旭川市立啓明小学校 五年 渡部真白

私は、一年生の時にあさがおを育てました。花が終わった後に種を取り、お花が好きなお向かいのおばあさんにプレゼントしました。

次の年、おばあさんはお庭に種を植えて育ててくれました。

「きれいに咲いたよ。」

と知らせてくれたので、見せてもらうことにしました。

そこには、見上げるほどの高さまで伸びたツルと、ピンクやむらさき色の花がたくさん咲いていたのです。

私は、自分で育てたあさがおしか見たことがなかったので、自分の背よりもずっと高い所まで伸びているツルにおどろきました。そして、きれいに咲いたたくさんのおさがおを見てほれぼれしました。

「毎日家の中からながめて、元気をもらっているんだよ。」

と、おばあさんはとてもうれしそうに話してくれました。それを聞いて、私もうれしくなりました。

おばあさんはいつも、ひな祭りやクリスマスの際にケーキをくれたり、夏には、お庭で育てた野菜を分けてくれます。やさしくて、大好きなおばあさんです。

私は、四歳からピアノを習っています。毎日欠かさず練習をしています。まどをしめてもピアノの音が外にもれてしまうので、夜九時ごろはひかないように気をつけています。

「うるさくてすみません。」

母は、ご近所さんに会うとあやまります。

でも、家族で町内のごみ拾いや親ぼく会に参加した時、

「いつもきれいな音色が聞こえてくるね。まどを開けてどんどん聞かせてちょうだい。」と、ご近所さんに言われました。

やさしく見守ってくれるご近所さんのおかげで、私は練習をがんばることができています。

ある日、町内のおじいさんがなくなりました。母は、車を持っていないおばあさんたちに声をかけ、車に乗せておそう式に行っていました。年末で、タクシーの予約ができなくなつて困っていたところだったそうです。

父は、毎年近所で雪にうまって動けなくなっている車を助けています。

私も、父や母のように、困っている人がいたら助けたり、ご近所さんのように、いつもやさしい気持ちでいられるような人になりたいです。

これからも、ご近所さんとの交流を大切にし、助け合いながら楽しくくらししていきたいです。

□優秀賞（旭川市教育委員会教育長賞）□

家族と人と関わることの大切さ

旭川市立東光小学校 六年 野<sup>の</sup>田<sup>だ</sup>いのり

私は去年の夏休みに、家族からはなれ五日間、祖父母が経営する民宿のお手伝いに行きました。祖父母の経営する民宿は、旭川から約百七十五キロはなれた天売島という小さな島にあります。夏になると道外や外国からたくさんのお客さんが訪れます。

私はその民宿で、朝は早く起きて朝食の準備や客室のそうじ、アイロンかけや晩ごはんの提供、後かたづけ、お皿洗いなどをしました。その経験を通して感じたことがいくつかあります。

一つは、人とのコミュニケーションの大切さです。民宿では初めて会う人ばかりで、人見知りな私はとても緊張しましたが、だんだんと接客していくうちに話すのがとても楽しくなりました。自分とちがう環境にいる人たちと話すのはとても刺激的で、とても良い経験になりました。これからも人とのコミュニケーションを大切にして過ごしていきたいなと思いました。

二つ目は、やりがいを感じたことです。私のお手伝いの内容は、朝食、晩ごはんの準備、客室のそうじなどで、すごく大変なのですが、お客さんがおいしいごはんを食べてくれていたり、よろこんでくれているところを見ると頑張っつてよかったなと思います、やりがいを感じたし、接客業はとても大変だけれど、その分やりがいを感じる仕事だと感じました。この経験を生かして、普段の生活でもみんなの役に立てるように頑張りたいと思いました。

三つ目は、家族とはなれるさびしさです。私は、家族と約五日間はなれてお手伝いをしにいったので、毎日会えるような当たり前のことができなくなっていました、とてもさびしかったです。休みの時間に電話をしたりしてなんとかのりきりました。家族に約五日間ぶりに会えた時はとてもうれしかったし、まだ二才の妹にも名前を久しぶりに呼ばれた時は泣きそうでした。改めて家族の大事さに気づきました。

この経験を今後の生活にも生かしたいと思いました。それと当たり前毎日過ごしている家族の存在も大切にしたいと思いました。



□優秀賞（旭川市小学校長会長賞）□

心でつながる街「旭川」

北海道教育大学附属旭川小学校 五年 茂<sup>も</sup>田<sup>だ</sup> さくら

冬休みに入る前に、学校から「みんなせい！」というフリーペーパーをもらいました。みんなせいってなんだろう？と思い、初めて聞く言葉だったので興味をわき読んでみました。私の住んでいる街でも、ボランティアでみんなが安全に、安心して生活ができる地域づくりを目的に、活動している方々がいることを知りました。

引越してきた私の住んでいる地域では、高齢者が大半で私達家族以外は子供を見かけることがありません。母に聞いてみると、この町内では二家族しか小さい子供がいないことがわかりました。私はおどろきました。小学校や児童館には子供がたくさんいるけれど、住んでいる地域には子供があまりいないこと。普段ニュースや新聞に書かれている高齢者の割合が増えている状況を身近に感じるようになりました。

大雪が降ったあとの週末に父が朝早くから除雪をしていました。私は冬休みなので少しおそめに起きて窓を見ました。すると、父はみんなが使う道路だけでなく、お向かいのおじさんの家の屋根の雪下ろしをしていました。父と会話をしていたおじさんは笑っているように見えました。そんな父の姿を見た私はこう思いました。家族ではない人のためにお手伝いができるってすごいな。私の中で、少し父が格好良く見えました。同時に、これがボランティアなのかな、と思いました。

子供達を対象にした冬休みのイベントで、陶芸教室があると町内のおじいさんが教えてくれました。子供が少ないからといって町内会のご厚意で、私達兄弟を無料で参加させてくれたのです。「冬休みの自由研究にもなるね。」と笑顔で話してくれました。私達兄弟は、

「ありがとうございます。」

感謝の気持ちを込めて言いました。

私は思い出していました。低学年のときに、通学路にあった家からすぐ近くのグループホームの方達に明るくあいさつをしてもらったり、自宅のかぎがなくて入れなく母を探して歩道を歩いていたらときに、

「ここで待っていていいよ。」

と優しくパズルをだしてくれて一緒に遊んでもらったことがあったのです。私も地域の人に助けてもらったことが何度もあることをはっきりと思ひ出したのです。

私は、「みんなせい！」を読んだことをきっかけに、私が住む街にもたくさんの人達が支え合って生活していること。そして、そのために民生委員として関わってくださり「支え合うまちづくり」を率先して行っていること。私達も協力して、助け合う気持ちを持つことを学ぶことができました。共に生きると書いて共生という言葉があります。私達の住む街の未来を考えて、私はご近所の方へのあいさつや除雪などのお手伝いもしていきたいです。

□優秀賞（旭川市社会福祉協議会長賞）□

小さな関わり、大きくなつながら

旭川市立高台小学校 六年 大石かのん

私の地域の人たちは、私が朝学校へ登校しているときに、「おはよう」「いつてらっしやい」などと声をかけてくれます。私が下校しているときも、「おかえり」「お疲れ様」と声をかけてくれます。このような言葉が、私の心の支えになっています。

登校中に、「おはよう」とあいさつをされると、朝の暗い気持ちが吹き飛び、「今日も一日がんばろう」という、前向きな気持ちになります。

学校終わりは、とても疲れています。が、「お疲れ様」という一言で、「今日もがんばってよかった」と思えます。

私は、これまで、あいさつでたくさん元気をもらいました。次は、私が地域の人たちにあいさつをして、みんなに元気を分け与えてあげられたら、いいなあと思います。

また、私の地域では、さまざまなボランティア活動が行われています。ゴミ拾い、独居高齢者宅での草刈り、ゴミ分別運び出しや除雪など、活動内容は多岐にわたります。ボランティア活動は、解決するだけでなく、人と人の関わりを深める重要な取り組みだと考えています。

私も、地域の公園の清掃活動に参加しています。はじめは、「何か役に立ちたい」という気持ちから取り組みましたが、活動をしていくうちに、地域の人々との交流が増えました。そして、普段なかなか話す機会のない人とも仲良くなり、ボランティア活動を通して、地域の一体感を感じました。

私は、こうした地域のボランティア活動、あいさつなどの何気ないかわりは、地域社会での、お互いの理解や信頼を築くきっかけとなり、とても大切で、私たちの生活において、なくてはならないと思います。

このように、ボランティア活動を通して、たくさんの人と知り合うことによって、高齢者や体の不自由な人たちにも、安心して生活できることにつながっていくと、私は思います。

以上のことから、私の住む地域では、これからもあいさつを交わしたり、日常での会話を交えたりすることで、人とのつながりを大切にしていきたいと思っています。



## □優良賞□

### 地域の人への感謝

旭川市立大有小学校

六年

明<sup>あかし</sup>石<sup>ゆ</sup>優<sup>づき</sup>月

私の家の近くには北の散歩道がある。その散歩道には、いつもいろいろなゴミが落ちている。私はゴミを見つけても、見て見ぬふりをして散歩道を通っていた。ある日、私は散歩道でお菓子のゴミを落とした。しかし、周りには人はいなかったし、どうせ私がやったとバレないだろうという気持ちだったのか、そのゴミを拾わずに帰った。

すると次の日の朝、友達と学校に向かっていると、私が落としたゴミを拾っている人がいたのだ。しかも、私のゴミ以外にもセブンイレブンのパンのゴミやタバコのゴミなど、たくさんゴミを拾っていた。そこで私は道に落ちていた、小さなゴミを拾った。拾った時のあの気持ちよさは今までにない、新しい感じがした。

そしてその日家に帰ってから、母に「今日の朝、ゴミ拾いをしている人がいたんだけど、あれってお金をもらってやっているの？」と聞いてみた。すると母は「それはボランティアだから、お金はもらっていないよ」と返してきた。私はとてもびっくりした。

その後私は、地域の人にありがとうの気持ちを込めて挨拶をすることにした。挨拶をするとは必ず地域の人は大きな声で返してくれた。時には世間話をしてくれることもあり、私はとても嬉しい気持ちになった。

そして私は、この作文を通して民生委員について調べてみた。すると民生委員とは、みんなが安心して生活できる地域を作るボランティアだということがわかった。さらに、日本全国で活動していて、地域の推薦会で推薦され、国から依頼される地域の役割の一つだそう。民生委員の活動内容は、訪問活動という、高齢者や障がい者のお宅を訪ねる活動であったり、災害に備えたまちづくりという、災害が起きた時に避難が難しい人のために日頃から訓練するなど、困った人を助ける活動をしていることがわかった。訪問活動は私の父がしている仕事に似ていて、父の話によると「障がい者や高齢者は、いろいろな危険があり、それを守る必要があるからとても大変な仕事だ」と言っていたので、それをお金をもらわずにやる人はすごいと思いました。

私はこの作文を通して、今後地域の人との交流を深めていきたいと思った。そして現在、民生委員のなり手が少ないらしい。父は「普段の仕事では相手に寄り添って、どうすればいいかを考えて仕事をしている」と言っていた。きっと民生委員の人もそのような考えを持った、とても優しい人なのだろう。私も将来、誰もが安心して生活できるように、普段から地域の人への挨拶などをして支え合いながら過ごしていきたい。



## □優良賞□

### 一言の挨拶

旭川市立北鎮小学校 六年 松<sup>まつ</sup>田<sup>だ</sup>彩<sup>あや</sup>夏<sup>か</sup>

私は、たった一言の挨拶で友達や地域の方、家族と仲が深められると思います。

なぜなら、挨拶を言う、返す、この少しのやりとりで人は元気になれるからです。ご近所の方や、友達に挨拶をして挨拶が返ってくると嬉しいし、これからも挨拶してみようという気持ちになるはずです。逆に、挨拶をしても返ってこなかったら、挨拶ができなくなってしまうたり挨拶に対しての恐怖心を抱いてしまったりする可能性があります。

私には、挨拶をして友達になった人や挨拶をしたことで喋るきっかけになった人がたくさんいます。会話ができない短い時間でも、おはよう、バイバイなどの声をかけることができれば、その友達と関係が悪くならず、小さなことでも物事を伝えられる仲になれます。

さらに、友達じゃない、地域の方やご近所の方とも挨拶をしてつながることができると私は思います。旭川は災害が少なく、対応になれていないのでもしもの時はみんな焦ったり困っちゃったりするはずです。私たち小学生や未就学児は絶対に焦るし、もし親がいなくて一人の時に地震などの災害があるととても怖いです。そんな時に普段から挨拶をしていないとご近所の方に助けを求めることができず、一人で避難をしなきゃいけなかったり、もしかしたら災害に巻き込まれてしまうかもしれません。ですが、普段から挨拶や会話をしていれば、地域の方やお隣の方に助けを求めたり、お隣さんと一緒に避難することができそうです。

私は母と兄と暮らしています。母は学校の国語の先生をしていて、兄は高校二年生です。私は母と学校に行くタイミングが一緒なので、母とはおはよう、いってきますの挨拶をしたり、朝ごはんを作ってくれるのでありがたいを言ったりする時間があるけど、兄は起きる時間が違うので挨拶ができません。おはようが言えないからこそ、寝る前におやすみを言ったりします。お互い思春期で家族と話すのは抵抗があるけど兄妹喧嘩が起きないように気をつけています。

私は挨拶をちゃんとし始めたのはおそらく今年からで、去年までは何人かに目を見ず、適当に挨拶をしていました。だけど今年からは学校の取り組みで挨拶運動を企画したり、校長先生からの呼びかけで目を見て、はきはき自分から挨拶をすることができるようになりました。私は人との関係を保つためにも、自分のためにも挨拶をすることが大切だと思います。



## □優良賞□

### 町内会って素晴らしい

旭川市立西神楽小学校 六年 里木梨夏さと きりん か

私の地域は、二十五軒の世帯があり、そのうち二十二軒は、六十五歳以上だけの人が住んでいます。子供は、私一人だけで、他にはいません。年々、一、二軒は亡くなる人がいて、町内会の人数が減ってしまい、新しい人は入ってきません。地域の人は、年々人数が減っていることに對し、

「悲しいけど、仕方がない。」  
と言っています。

私の町内会では、行事で、盆踊りや新年会を行っています。盆踊りでは、地域の人が一致団結し、祭りを盛り上げようとする姿を見ました。私の父と母も地域に積極的に関わり、みんなで協力していました。私は、人見知りで、すぐに緊張してしまうということがあり、恥ずかしくてあまり直接的に関わろうとしませんでした。それでも、父と母がやっているのを見て、「地域っていいな」と思い始めました。

それから、新年会では、ビンゴ大会などの催しが毎年行われています。みんなでそれぞれの役割を決め、一緒に話し合って、楽しい企画を考えてくれています。そんな思い出や繋がりがあからこそ、地域の人が地域を好きになっていくのだと思います。そんなことをしている時、町内会長さんからの言葉がありました。それは、

「死んで一週間も見つからないような情けない町内会にはしたくない。」

という言葉でした。その言葉を聞いている最中、父は目に涙を浮かべながら、町内会長さんの話を真剣に聞いていました。私は、町内会長さんの言葉と父の初めて見せる涙を見て、町内会長さんの強い意志を感じ、地域を大切にしようとした温かい父の気持ちがとても誇らしく思えました。

地域の人口が減少している中、私に出来ることは今はまだ少ないかもしれませんが、私がこの先、進学、就職して行く中で、地域との関わりを大切にしていきたい、これから考えていきたいと思えます。そして、どのように地域を活性化させることで人口増加へと繋がるのか、父のように自分ごととして捉え、私が出来る最善策を見つけていきたいです。



## □優良賞□

### 人と人をつなぐあいさつ

旭川市立豊岡小学校 五年 島田千晶<sup>しまだちあき</sup>

「おはようございます！」その一言で今日も気持ちの良い私の朝が始まります。

私の家の近所や通学路には、朝、会ったら必ずあいさつをかわしてくれる人がいます。白い犬の散歩をしているおじいちゃん、近所のゴミ捨て場で会うおばあちゃん。特に通学路では、「おはよう。車に気をつけてね。」などと喋ってくれるおじいちゃんがあります。そのおかげで、すごく気持ちの良い朝をむかえることができ、今日も一日がんばろうという気持ちになります。中には、私がいさつをしてもかえしてくれない人もいます。そういう時、私は母の言っていることを思い出します。母はいつも「たとえあいさつが返ってこなかったとしても、あいさつをされていやな気持ちになる人はいない」と言っています。だから私は、積極的にあいさつをすることを心がけています。

私は、祖父母の家にもよく遊びに行つて、泊まつてきます。特に私は、お正月が大好きです。父と母、兄はもちろん、親せきや友人などたくさんの方が集まるからです。私は、そうやって皆で集まると、やっぱり家族や親せき、友人はあたたかくぬくもりがあるんだなあと感じます。夏休みに泊まりに行つた時には、朝、祖父母と一緒に地域のラジオ体操に参加したりもしました。あいさつをすると、皆笑つて「おはようございます」と返してくれます。祖父もしっかりあいさつができて、「えらいなあ」とほめてくれました。勇気をふりしぼつてあいさつをして良かったなあという気持ちになりました。家族以外の近所の人などに関わることは少ないと思つていたけれども、あいさつやラジオ体操などを通じて、私がいさつかないうちに地域の人や近所の人などとたくさん関わり、つながりをもつていたんだなあと思ひました。

私は、あいさつは人と人をつないでくれて、あいさつをした人もされた人も良い気持ちになる大切なものだと思います。私はこれからもどんな人にも、たとえあいさつが返されなくても、自分からあいさつをすることを心がけていきたいと思ひました。また、近所の人や地域の人など、助け合い、つながりを大切にして毎日生活していきたいです。そして、お互い助け合える世の中にしていきたいです。



## □優良賞□

### 地域の関わりの大切さ

旭川市立高台小学校 六年 佐々木 柚花

私は、近所の関わりをととても大切にしています。なぜなら、私の家の周りには子どもがあまりいなくて、ご近所のおばあちゃんやんと前にお話をしたときに、

「ここらへんは本当に老人ばっかだから、元気な子どもたちがひっこして来てくれてとてもうれしい。元気もらえる。」

と言っていたことを覚えていたからです。このようなお話を弟と聞いたときに、私は「自分達が話しかけるだけでおじいちゃんおばあちゃんやんが笑顔になるなら、次からは積極的に話しかけよう」と思いました。そこで、このことを弟に伝えました。すると弟は、

「みんなが元気になれたらいいよね!!」

と言っていました。私は弟がそのようなことを言うてくれるなんて思ってもいなかったのととてもおどろきました。それから私達は、学校に行くときや家に帰るときは地域の人に積極的にあいさつしたりお話をしたりしています。地域の人はみんな、

「おかえり、今日は何したの?」とか、

「何か困っていることはない?いつでも相談してね。」

など、いろいろなことを話したり、聞いたりしてくれました。私は家の近くにも相談することのできる大人がたくさんいることに、とても安心しました。家にいる家族とはちがうしんらいがあり、たのめしいと感じました。

数か月前に、またいつものようになりのおばさんと学校の帰りにお話ししようとあいさつをしたときに、いつもおばさんというおじいさんがいないことに気がつきました。弟はあいさつをしたあと、

「今日はおじさん、いないんですか?」

と聞くと、

「おじさんねえ、もともとあった病気が悪化して入院してるんだ。」

と言っていました。私は悲しくなりました。最初は、何も知らないおじいちゃんだったのに、こんなに心配になるのは、ご近所さんをたよっていたということに気がつきました。

この前、おばさんの荷物を運んだとき、

「ありがとう。次もまたたのんでもいい?」

と言われ、

「だいじょうぶです!!」

と言うと、

「たよりにしてるね。」

と言ってくれました。私はうれしい気持ちになりました。

このように地域の関わりを大切にすると、おたがいが安心でき、住みごこちがよくなるのです。そのため、私はこれからも近所の関わりを大切にしていきます。

## □佳作□

### 町内会の大事さを知って

旭川市立末広小学校 五年 山田晴斗<sup>やまだ はると</sup>

ぼくは、小学一年生の六月ごろに旭川に引越してきました。もちろん、だれも知っている人はいません。お友達もいませんでした。

引越して来てすぐに、町内会へ加入のおさそいがきて、父は加入しました。この時は、まだぼくは一年生なので町内会の意味がわかっていませんでした。

そんなぼくは今、五年生になり町内会に沢山参加するようになりました。町内会に参加することで、町内会の大事さや町内の人との関わりを覚えました。

ラジオ体操に行つて顔を覚えてもらい、元気なあいさつをしました。この前は、初めて町内のゴミ拾いにも参加しました。その時に、いつも通学路で通っている道にゴミがずつとあつて気になっていたので、そのゴミを拾いに行きました。すると、建物から人が出て来て「ありがとう」と言ってもらえて気持ち良かったです。

ぼくはこうして、町内会に参加をしたり、町内の人に顔を覚えてもらいました。今では、すっかりなじんでいます。

でも、ぼくが一番町内の人との関わりが大事だなと思ったのは、母の行動です。母は、引越しをして来てから毎回ゴミ拾いに参加したり、班長を引き受けたりしています。そして、ぼくの家の周りが高れい者ばかりで、母は、近所の人に会うと必ずあいさつをしてから「何か困った事があつたらいつでもくださいね」と言っています。

そんな母に、近所の人が「融雪溝があかないからあけてほしい」と頼つて来た人がいたり、逆に母の車がうまって困っていたら近所の人々が助けてくれたりしています。そんな母の姿を見て、ぼくは近所の人との関わり的大事さを知りました。

ぼくも、これからも町内のイベントなどに参加して、近所の人々が困っていたら助けあげたり、頼ってもらえる人になりたいです。そして、町内の人との関わりや町内会の大事さをお友達にも広めていきたいと思います。これからの町内会には、ぼくたちのように若い人たちが必要になってくる時があると思うので、その時は協力したいです。



## □佳作□

### 地域の一員として

旭川市立豊岡小学校 六年 久保俊輔くぼ しゅん すけ

ぼくは去年の十月、十一年間過ごしたお家から引越しました。

その四か月前の六月、お家をつくり始めたとき、新しく建てる土地を見に訪れました。家の土台みたいなので部屋の大きさを区切っていました。この土地の周りを見てみようと散歩に行きました。少し歩き始めたころ、庭の手入れをしていたおじいさんが「このあたりに引越すのかい。」と話しかけてくれました。そして「このへんは優しい人ばかりだよ。近くにスーパーや郵便局もあって便利だ。これからの生活が楽しみだね。」と近所のことについて教えてくれました。確かに以前、このあたりを車で通ったとき町内会の方々が歩道の花だんを協力して手入れをしていました。その他にもゴミステーションの別のルールをしつかり守っていたりしているのを見て、このあたりの住民は、たとえあたり前のことであっても手をぬかずしつかりと日々続けている人がいっぱいいるんだなということが分かりました。そして、このような人がいるからこそ、おたがいが暮らしやすく、気持ちよく過ごすことができるんだなということを改めて実感しました。ぼくも引越したら今まで以上に「この地域の方々の役に立ちたい」という気持ちが高まりました。

そして十月、引越した日に両隣のお家と、裏のお家にあいさつにいきました。どのお家の人も「これからよろしくね。」と笑顔でぼくをむかえてくれました。

新しい家に来てから月日が経ち、十月十九日の夜に旭川で初雪が観測され、十一月下旬から本格的に雪が積もり始めました。家の前の雪をかいているとお隣の家の人が出かけるようで、家から出てきました。ぼくは「こんにちは。」とあいさつをすると、「こんにちは。雪かきえらいね。」と返してくれました。

あいさつをすると、顔見知りになり、もしものことがあったときに助けを求めやすいというメリットもあります。それ以前にやっぱあいさつをすると、おたがいが気持ち良くて、「がんばろう」と思うことができます。そして、あいさつから何かの会話のきっかけにもなります。だからこそ、たとえ知らない人でも、ある程度知っている顔見知りの人でも、どれだけ仲が良い人でも、人と人との関係はあいさつから始まり、あいさつはなくてはならないものだという事に気づきました。

そして、これからも元気にあいさつをしようと思いました。

また、地域の人の一員として役立てるよう、あたり前のことにも手をぬかず、行事にも参加して、おたがいが気持ち良く、暮らしやすい地域をつくっていきけるよう、近所の方々と協力してがんばっていききたいです。



【講評】

▼第二回（令和六年度）旭川市内小学生『民生委員・児童委員』作文コンテストには、小学校五・六年生から前回は上回る三〇校七八編の応募があり、大変ありがとうございました。

▼作文の内容としては、①家族の素晴らしさや絆、②隣近所の関わりや助け合い、③人と人との関わり合いやあいさつ、④町内会との関わりや必要性、⑤高齢者や障がい者と共に生きる、⑥民生委員・児童委員の活動などについて、自らの体験をもとに感じたことや考えたことを自分なりの言葉で表現していました。

▼さて、最優秀賞に輝いた岩内愛莉さん（永山西小）の作文『ぼかぼか〜温かい気持ち〜』は、読み手も題名のとおり「ぼかぼか」と「温かい気持ち」になる作文でした。「私と兄」の小さい頃の映像を見ながら母とのやり取りが上手に再現されています。特に、いたずらばかりしていた「私」に対して、笑顔で楽しそうに「毎日が戦い」と言いながらも「どんな日だって宝物」と教えてくれた母の温かく包容力のある言葉がこの作文の中核をなしています。家族の在りようが問われている昨今、この作文をとおして「家族とは何か」を考えさせられました。

▼審査委員は全ての作文を読ませいただきましたが、小学校五・六年生とは思われない素晴らしい作文が多くとても感銘を受けました。さらに、家族や地域の方々と関わる一人の小学生として、「支え合う 住みよい社会（家庭や地域）」について考え、より良い生活を目指そうとする姿勢は、私たち大人も見習わなければなりません。

（令和七年三月一日 旭川市内小学生「作文コンテスト」審査委員長 猫山房良）

旭川市民生委員児童委員連絡協議会事務局

会長 佐川 徹

住所 〒070-0035 旭川市5条通4丁目893-1

旭川市ときわ市民ホール内

電話 0166-56-0150

FAX 0166-23-0746

E-mail siminjiren@asahikawa-shakyo.or.jp